

α世代の仮説ブラッシュアップ

7月28日にα世代サキドリプロジェクトの第1回として、「α世代を育てている母親から見たα世代」のリエゾンインタビューを実施した。きちんとした分析はこれからだが、我々の3つの仮説をインタビューの印象から敷衍してみる。

<ショート動画ネイティブが生む人間関係>

ショート動画ネイティブはコンテンツの直感的理解と評価のフラットな感情を生む。パット見て理解と好き嫌いができるショート動画は、読む・理解するのに時間と労力がかかる言葉、文章より気軽に付き合える。ショート動画はアディクションになり、長い文章は回避されるだけでなく、文字そのものを使わない無文字文化に向かう気配さえある。スマホ、タブレット、携帯ゲーム機のパーソナルな機器が人間関係作りにも影響し、リアルな友人作り、家族関係の苦手感を生む。公園に数人集まって各自ゲーム機を見つめて、たいして会話もせずに解散するα世代。即興でグループを作り、リーダー（ガキ大将）が自然に決まるというネットワーク作りのスキルが身に付かない。家庭の食事でも子どもはスマホ、タブレットを持って現れ、一家で同じテレビ画面を見ながらの団らんがない。だから、家族内の序列意識（お父さんはエライ）も育たない。

<AIネイティブが作るα世代の社会認識>

AIへの過剰な期待感、恐怖感、つまりシンギュラリティなるものをα世代は全く意識していない。思春期に入ったときからAIは身近にあり、知らないうちに使って恩恵を享受している。「AIすごい！」の崇拜も、AIに仕事を奪われる、支配されるとの恐怖からも自由である。彼らは理想の社会、平等社会を築くために社会運動・政治運動が必要との認識もない。それはAIを駆使することで実現できると暗黙の裡に考えているようである。つまり、政治イデオロギーや宗教からあらかじめ解放されていると言える。さらにエージェントAIの普及で、現在のSNSのフェイクニュースや陰謀論がAIのフィルタリング機能で乗り越えられ、コトバの暴力から解放される。それより、AIと心を通わせることが起こったとき、アイデンティティをどう保つかのまうが汰きなテーマかもしれない。

<α世代の災害は戦争ではなく自然災害>

α世代以前の大災害は戦争であった。今でも戦争、原爆体験を語り継ぐという運動は続いている。戦争の理不尽、悲惨を語り継ぐことで戦争を起こさなくさせるというナイーブな戦後平和運動はα世代にとって非常に観念的に映る。α世代が体験した災害はコロナパンデミックであり戦争は無い。戦争は人間が起こすがコロナはウイルスという自然が起こした。パンデミックへの対応では、人間行動の問題になったが、人間が正しく行動したところで、自然現象に完全に対応することはできない。このコロナパンデミック災害体験は、α世代に世の中は「人として努力しても避けられない、どうしようもできないこと」が起こると言う認識を生み、深く沈潜している。こうした諦念とAIへの信頼がα世代の「やさしさ」につながっている。

<8月26日にリアルα世代の高校2年生へのFGIを実施する>

現在、機会によるリクルーティングをスタートさせた。インタビュースクリプト作りから参加できる見学者・共同研究者を募集中！